

「仙台市農業施策基本方針」の見直しについて

令和8年9月2日

1. 概要

地域特性や農業を取り巻く現状、国等の動向を踏まえながら、本市農業の持続的な発展を図り、食料の安定供給と農業の収益性向上を目指すため、現行の「仙台市農業施策基本方針」（以下「基本方針」という。）を見直すもの。

2. 基本方針の実施期間

令和8年度(2026年度)～令和12年度(2030年度) ※概ね5年間

3. 検討経過

仙台市農政推進協議会の下に学識経験者、各種団体の委員等7名で構成する「農業施策基本方針検討委員会」を設置し、全3回開催。

令和8年3月17日	第1回検討委員会
令和8年5月22日	第2回検討委員会
令和8年6月30日	第3回検討委員会

施策の実施状況の振り返りのほか、地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)策定時に収集した農業者の意見、食育体験参加者のアンケート、国・県等の計画などを踏まえて検討を行った。

4. 今後の予定

令和8年9月2日開催の仙台市農政推進協議会にて協議。
⇒承認後、市長決裁。

5. 基本方針(案)のポイント

見直しにあたって議論された主な視点

- ✓ 近年の農業を取り巻く環境変化(担い手不足、気候変動、資材高騰・供給不安、食料安全保障)
- ✓ 本市の都市個性である「自然と都市機能の調和」を活かした農業
- ✓ 多様な経営体や担い手の確保・育成 …… 【施策の柱(1)】
- ✓ 有害鳥獣対策の強化 …… 【施策の柱(2)】
- ✓ 有機農業など、環境に配慮した持続可能な農業 …… 【施策の柱(3)】
- ✓ 農業が持つ多面的機能(自然災害防止、生物多様性の保全、良好な景観)の再認識 【施策の柱(3)】
- ✓ 多様な人々との共創、農業者と消費者の相互理解や交流機会の創出 【施策の柱(3)(4)】
- ✓ スマート農業技術等を活用した生産性・収益性の向上 …… 【施策の柱(4)】

新たに追加された項目

- ✓ 「目指す将来像」と「施策の柱」のイメージ図
- ✓ 施策の柱に関連する主要指標

6. 目指す将来像

目指す将来像

多様な人材で支える持続可能な都市農業

都市と農村が調和する本市の特性を生かし、多様な人々が共創しながら、地域特性に応じた生産力・経営力の強化と農地資源の保全を図るとともに、収益性・経済性と環境に配慮した持続性を両立した魅力ある都市農業を実現し、農や食の豊かさを未来につなげていく。



将来像の実現に向けて、

4つの柱 に沿った施策を展開する。



7. 施策の柱

施策の柱(1) 経営体の確保・育成 ～次世代に農をつなげる多様な担い手づくり～



地域農業を支える人材として多様な経営体や担い手を確保・育成し、将来にわたって安定した農業構造を構築するとともに、特性に応じた生産性の向上などにより経営力を強化する。

<施策の方向性>

- ① 認定農業者や集落営農組織などの経営体の育成、円滑な世代交代・事業承継支援
- ② 多様な主体の参入支援、就農促進のためのマッチング
- ③ 経営力強化に向けた専門家派遣や研修の実施、経営感覚が豊かな経営者の育成

◎主な重点事業

- ・アグリ経営アドバイザー事業
- ・地域農業人材確保支援事業

☆今後検討する事業(案)

集落営農再編支援	集落営農組織の次世代への事業承継を促進
アグリチャレンジャー育成事業	講義や研修を実施し、小規模農業者や援農人材を育成
農業参入促進事業	農業分野に参入を検討する企業等の立ち上げ支援
農業DX人材育成事業	農業者向けに農業DX導入や実践人材の育成を支援

施策の柱(2) 生産基盤の強化
～安定した営農を支える農地・生産基盤づくり～



農地の再整備や集積・集約、農業用施設の適正な維持管理などにより、良好な生産基盤の整備や保全、有効利用を進めるとともに、農作物への鳥獣被害対策を一層強化し、安心して農業に取り組めるような環境整備を行う。

< 施策の方向性 >

- ① 西部地区を中心とした、生産性向上を図るためのほ場整備の着実な実施
- ② 農業振興地域整備計画の適切な運用、農地の集積・集約
- ③ 自然災害の備えや生物多様性の保全等を踏まえた農業用施設の予防的な補修や更新
- ④ 有害鳥獣の捕獲や防除対策の強化、処分体制の構築

◎主な重点事業等

- ・農業振興地域整備計画の適切な運用
- ・有害鳥獣の捕獲活動や農作物防除対策
- ・有害鳥獣被害の未然防止対策

☆今後検討する事業(案)

新規ほ場整備の調査・計画	新たに検討するほ場整備区域の調査や合意形成等を支援
農業用水取水堰の改修	老朽化が進む取水堰の補修や魚道の改修を実施
有害鳥獣捕獲従事者育成支援事業	捕獲従事者の育成に向けた技術講習等の実施
先進技術を活用した行動履歴調査	AIセンサーカメラ等を活用した有害鳥獣の行動履歴追跡

7. 施策の柱

施策の柱(3) 地域農業の持続的発展 ～市民と共に進める環境と調和した農業～



農業の多面的機能を維持する活動や農業資源を活用した地域づくりを促進し、環境と調和した持続可能な農業を推進するとともに、市民を始めとする多様な人々が地域農業の支え手となり、安全安心な食を次世代へ継承する。

<施策の方向性>

- ① 環境に配慮した取組みへの支援、食の安全安心に対する消費者理解の向上
- ② 地域の共同作業の支援、遊休農地解消の取組み、援農活動・農作業ボランティアの仕組みづくり
- ③ 多様な農業体験等、農業者との関係性強化

◎主な重点事業等

- ・小学校等連携による農業理解促進事業
- ・せんだい農業園芸センターでの事業実施支援

☆今後検討する事業(案)

有機農業等ステップアップ支援事業	新たに有機農業等に取り組む農業者が学ぶ機会を提供
遊休農地解消実践プロジェクト	遊休農地の解消に向けた企画検討等の活動を支援
アグリ人材マッチング事業	農業者の要請に応じた農業技術習得者の人材紹介
多様な農業体験機会の創出	市民協働型の取組みや多様な人々が農業体験できる場の提供
地域農業活性化支援	地域に根差して活動する人・組織づくりの支援

施策の柱(4) 収益性の向上
～最新技術を活用した生産性の向上と販売力の強化～



将来を見据えた経営戦略に基づき、スマート農業技術や先端技術の活用による高い生産効率を実現する農業経営の確立するとともに、効果的な情報発信やブランド力強化などにより収益性の向上を図る。

- <施策の方向性>
- ① 先端技術を活用した省力化・効率化、生産性向上
 - ② 地産地消など生産者と消費者をつなぐ機会の充実
 - ③ 6次産業化や農商工連携に係る伴走支援、ブランド力強化や販路拡大
 - ④ 水田活用による収益性の高い安定的な生産体系の構築

- ◎主な重点事業等
- ・スマート農業機械等導入支援事業
 - ・水田輪作モデル構築事業
 - ・地産地消機会創出のための情報発信支援

☆今後検討する事業(案)

アグリ・イノベーション連携事業	スタートアップ等の企業と農業者とのマッチングや伴走支援
食と農でつながる交流促進事業	食体験ツーリズムを通じた誘客促進や連携イベント企画
仙台産農産ブランド創出事業	特産品を活用した新商品開発やブランド化、販路拡大支援
農産物新しい売り方応援事業	市内飲食店等を対象とした商談会開催などの販路拡大支援

8. 主要指標

施策の柱	項目	現状 (R7年度末)	目標 (R12年度末)
(1)経営体の 確保・育成 	アグリ経営アドバイザー支援組織数(延ベ)	3経営体	6経営体
	地域農業人材確保支援事業実施日数(延ベ)	0人日	200人日
	新規就農者数	6人/年	15人/年
(2)生産基盤 の強化 	農地整備事業完了割合(倉内・大針地区)	72.2%	100%
	農地整備事業完了割合(秋保野尻地区)	36.5%	100%
	防災重点ため池の防災工事(廃止含む)着手数(延ベ)	12カ所	41カ所
	有害鳥獣被害額	13,686千円	9,580千円
(3)地域農業の 持続的発展 	みどり認定を受けた農業者数(延ベ)	9経営体	20経営体
	農用地区域面積のうち、日本型直接支払交付金の活用により保全管理される農地面積の割合	79.7%	85.0%
	市民参加型農園数(学童農園及びレクリエーション農園)	91カ所	100カ所
(4)収益性の 向上 	スマート農業機械等導入支援件数(延ベ)	11件	36件
	とれたて仙台Instagramフォロワー数	3,915人	8,000人
	販売促進イベント開催数	30回/年	50回/年

